

令和2年度 一般入試（前期）小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで2ページあります。解答用紙は3枚です。下書き用紙は1枚あります。
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があったら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってはいけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

相手に失礼にならないように、相手が気分を害さないようにと気をつかっているのに、それが裏目に出て、心理的距離が縮まらないということもある。

初対面の相手や目上の相手に対して、失礼にならないようにと敬語で丁寧に話すようにしているせいか、なかなか親しげな雰囲気になれない。それに対して、そんな気づかいをまったくせずにいきなりタメ口でしゃべったり、ときにからかったりして、見ていてハラハラする人物の方が、なぜか受け入れられ、仲良くなっていく。

人づきあいにとくに気をつかうタイプは、そうした経験をするたびに、「おかしいじゃないか。なぜあんなずうずうしくて失礼なヤツの方が受け入れられるんだよ」と納得がいかない思いに①加えられる。

人づきあいに人並み以上に気をつかうタイプは、子どもの頃からそうした経験をしている。先生はずっと年上の人だから、いつもちゃんと敬語を使って礼儀正しく応対するようにしてきた。それなのに、先生に対しても友だちに対するときのようなタメ口で話す同級生の方が先生のお気に入りになって、しょっちゅう先生とじゃれ合っている。部活でも、先輩に失礼があってはいけないと思い、いつも敬語で礼を②つくしている。ところが、先輩に対しても友だち感覚で話す同級生の方が、なぜか先輩からかわいがられている。

そうした経験を通して、遠慮せずに甘える方が親しくなりやすい、遠慮しすぎるとかえって心理的距離が縮まらないということがわかってくる。それは頭ではわかっているけど、どうしても気をつかい、遠慮してしまうのだ。

長く学生たちの相手をしていると、時代の流れを感じるが、友だち関係という点で言えば、深く語り合うということがなくなってきたように感じる。

さしさわりのない冗談を言ったり、軽い情報③「コウカン」をしたりするだけで、ホネをぶつけ合える友だちがいなくて淋しいという相談を受けることもある。

これまでに見てきたように、相手に気をつかって合わせるばかりで、自分をあまり出さずに、相手がこちらに期待している反応を演じる。わざと演じているつもりはないのだが、気まずくなりたくないし、変なヤツと思われたくないので、自然に演じてしまう。

実際、学生たちを見ると、以前と比べて話さないわけではなく、賑やかにしゃべっているのだが、ほんとうに気になっていることを語り合うという雰囲気ではないことが多いようだ。…中略…

そんなのは虚しいということ、ほんとうに気になることを話したら、空気を乱したらしく、みんなが退いたから、もうホネは言えないと思ったという学生が相談に来たこともある。

そこで思い出すのは、精神科医の大平健が指摘したやさしさの変容だ。大平は、若者の間でやさしさが変容していることを指摘し、それを「治療としてのやさしさ」から「予防としてのやさしさ」への変化というように特徴づけている。

お互いのココロの傷を舐めあうやさしさよりも、お互いを傷つけないやさしさの方が、滑らかな人間関係を維持するにはよいということになったのだという。

かつては、相手の気持ちを察し、共感することで、お互いの関係を滑らかなものにするのがやさしさだった。ところが今では、相手の気持ちに立ち入らないのがやさしさともみな

される。相手の気持ちを詮索しないことが、滑らかな関係を保つのに欠かせなくなっている。そのように説明する大平は、④キユウライのやさしさが相手の気持ちを察するのに対して、新しいやさしさは相手の気持ちに立ち入らないところに大きな違いがあるという。

このようにやさしさが変容しているとすれば、ホンネの交流がしにくいのも当然と言える。

「治療としてのやさしさ」が主流の時代なら、ホンネをぶつけることでうっかり傷つけてしまっても、なんとか修復できるだろうと信じていることができる。

ところが、「予防としてのやさしさ」が主流の時代では、うっかり相手の気持ちを傷つけてしまったら、関係がぎくしゃくして修復不可能になりかねない。それを防ぐコツは、お互いに相手の気持ちに立ち入らないことだ。

そうした変化の背景には、傷つくことや傷つけることを極度に恐れる心がある。ウケ狙いの発言の応酬を楽しむ分には、ホンネのメッセージが刺さることもないので、傷つくのを防ぐことができる。ただし、それは⑤ブナンではあっても、ホンネの交流がないことの淋しさがつきまとう。

（榎本博明著『対人不安』って何だろう？』ちくまプリマー新書）

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 この文章を二〇〇字以内で要約しなさい。

問三 波線部はどういうことですか。自分の体験をもとに三〇〇字以内でわかりやすく説明しなさい。

問四 二重線部の筆者の見解について、あなたはどのように思いますか。具体例をもとに四〇〇字以内で述べなさい。